

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2694 号

Relationship between labral length and symptoms in patients with acetabular dysplasia before rotational acetabular osteotomy

寛骨臼回転骨切り術前の寛骨臼形成不全患者の関節唇長と症状との関係

白銀 優一 (しろがね ゆういち)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、症候性寛骨臼形成不全患者における股関節骨形態学的パラメータ、関節唇長を計測しその関係性を分析し、関節唇長が股関節症状と関連していたことを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。寛骨臼形成不全の診断には骨形態が用いられることが多いが、寛骨臼形成不全の病態である股関節不安定性に寄与する因子として軟部組織が注目されている。なかでも関節唇については多くの研究があり、過去の研究では寛骨臼形成不全の関節唇は正常股関節と比較して長い傾向があることは報告されていたが、症状との関連性については検討されていない。我々の研究では前方関節唇長は JHEQ の各スコアと最も強い相関を示した (JHEQ 疼痛サブスケール [r (95% 信頼区間 (CI) ] = -0.335 (-0.555, -0.071), P = 0.014]、 JHEQ 動作サブスケール [r (95% CI) = -0.398(-0.603, -0.143), P = 0.003]、メンタルサブスケール [r (95% CI) = -0.436 (-0.632, s -0.188), P = 0.001]、JHEQ 総合点 [r (95% CI) = -0.451 (-0.642, -0.204), P = 0.001])。また重回帰分析の結果、複数のモデルにおいて、前方関節唇長は JHEQ の疼痛サブスケールと独立して関連していた。さらに、年齢、Acetabular index、JHEQ 総合点は、それぞれ複数のモデルで前方唇長と独立して関連していた。股関節の不安定性によるストレスの蓄積によって関節唇が伸長する可能性が示唆された。以上から、関節唇長が、臨床の場で累積する股関節不安定症の重症度を評価するために使用できる重要な客観的画像所見である可能性がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。